

# 「今を生きる」

(校長便り R2 NO.6)

校長挨拶 (2学期始業式)

皆さん、おはようございます。今回は例年に比べて短い夏休みでしたが、有意義に過ごすことができたでしょうか？この短い夏休みの間にも、ほとんどの人が補習や部活動に励んでいました。夏休みの間、大きな事故やケガ等もなく、全員が元気で2学期を迎えられたことは素晴らしいことですし、何より、皆さん一人ひとりが自分を律し、節度ある生活を送ってきた結果だと思います。

さて、私自身もこの夏休みに何日かお休みをいただきました。ただ、コロナ感染が拡大していますので、ほとんどが家で本を読んだり、音楽を聴いたりして過ごしました。音楽は何を聴いていたのかというと、先日、米津 玄師さんの『STRAY SHEEP』というアルバムが出たので、それを購入し、ひたすら聴いていました。以前から、彼の創るメロディはもちろんのこと、独特の歌詞が気になっていました。

そのアルバムの中に、『迷える羊』という楽曲があります。歌詞に

「千年後の未来には 僕らは生きていない 友達よ いつの日も愛してるよ きっと  
誰かが待っている 僕らの物語を」

というフレーズがあります。勝手な解釈かも知れませんが、この曲を聴いていて、自らを“俯瞰”してみるものの大切さを感じました。“俯瞰”とは、「高いところから見下ろす」ことで、転じて、「広い視野でものごとを見る」、「客観的に全体像を捉える」という意味です。

今、私たちはコロナによって不安で不自由な生活を余儀なくされています。ともすれば、目の前で起きている出来事に対処することに精一杯で、将来のことまで考えづらくなっています。しかし、私たちの今の様子が1000年後の人々の目にはどう映るのでしょうか。よく頑張っていたなどと映るのでしょうか、それとも滑稽に映るのでしょうか……。そんなことを考えると、少しではありますが、気持ちに余裕が生まれませんか？今の自分を少し離れたところから見ることで、自分を客観視することができ、心に余裕が生まれます。

今はまさに変化の時です。その変化を恐れることなく、また悔ることなく、時に“俯瞰”しながら変化を楽しむことができれば、きっと人生はその人にとってかけがえのない価値あるものになると思います。

この2学期は、3年生にとっては進路実現に向けていよいよラストスパートの、2年生にとっては生野高校の顔として様々な場所で活躍をする、そして、1年生にとっては1学期はままたまななかつた本格的な高校生活のスタートを切る学期となります。皆さん全員が一步踏み出す勇気を持って、前向きな気持ちで2学期を迎えてほしいと願っています。

以上で、2学期始業式の挨拶を終わります。

令和2年8月19日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善